

令和 5 年 10 月 16 日

2022 年度授業アンケートの評価について

本学院では、昨年度より授業アンケートを WEB 入力化し、学生は ELMS 上で自身の履修した科目を回答する仕組みに切り替えた。アンケートの結果、1 学期に関しては調査対象とした 50 科目中 43 科目 (86.0%) から、2 学期に関しては 44 科目中 35 科目 (79.5 %) から回答が得られた。回答率は、1 学期が 35.8%、2 学期が 25.7%であり、昨年度 (1 学期 53.2%、2 学期 38.0%) より低下している。アンケートの WEB 入力化は、回答者が自身の都合の良いタイミングで回答できる点でメリットのある一方、回答率が著しく低下する傾向が全学的なアンケート調査でも見られている。授業効果の分析を正確に行うためにも、回答率を上げるための工夫が必要といえる。

2022 年度は前年度と比較して、ほとんどの項目で 1 学期、2 学期共に肯定的な回答の割合が上昇している。2021 年度の調査でも同様の傾向がみられており、本学院の授業内容やレベルは適切な水準を維持した上でここ数年継続的に向上していると判断できる。シラバスに関連する設問 1~3 すべてにおいて、「強くそう思う」、「そう思う」との回答は 9 割以上を維持しており、各教員がシラバスに基づいた講義を着実に実施していることがわかる。また、設問 5~10 における教員の説明、話し方、学生との双方向コミュニケーションなどに関する設問においても、約 9 割の学生から肯定的な回答 (「強くそう思う」、「そう思う」) が得られている。

「授業への出席率 (設問 11)」に関しては、9 割以上の学生が授業に 80%以上出席したと回答しており、かつ「ほぼ 100%」と回答している割合も前年度より増加している。また、設問 14「授業による知的刺激、さらなる勉学意欲」の項目、設問 15「授業全体の満足度」の項目、設問 19「研究者として成長する上での効果」の項目において、「強くそう思う」とする回答がいずれも 5~10%程度増加しており、より学生の学習意欲・満足度を高めた質の高い教育を提供できていると考えられる。次年度以降もひきつづきこの傾向を維持できるよう留意しながら授業運営を進めていく必要があると考える。

以上から、本学院の授業運営は堅調に行われていると評価でき、本学院の目的に沿った研究者ならびに高度専門職業人の養成を推進するための向上を今後も図っていく所存である。

北海道大学大学院環境科学院

学院長・教務委員会委員長・教授 谷本 陽一
執行部室・特任助教 伊藤 公一